

別府温泉めぐり

街のあちこちから湯けむりが立ち上っていた。ここは大分県にある源泉数、湯出量とも日本一の別府温泉だ。鶴見岳（1375m）伽藍岳（1045m）の二つの火山の東側に多数の温泉が湧き出ている。この豊かな温泉資源は観光地として明治時代初期から発展。

1957（昭和 32）年に別府温泉観光産業大博覧会が開催されると、別府タワー、別府ロープウェイ、別府競輪場に加え、宿泊施設の急激な増大と共に九州横断道の開業。そして瀬戸内海を通り大阪と直接結ぶ「くれない丸」が就航。3000 トン級クルーズ客船は当時の新婚旅行の定番となっていた。



私もそうであったが、関西からの高校生の修学旅行は別府経由の九州であった。大阪から船に乗り朝早く別府港に降り立ったことを思い出す。今から 50 年も前のことである。

ストレスが大きな社会問題となっている日本にあって、どれほど多くの方が温泉効果によって救われてきたであろうか。身も心もリラックスさせてくれるからありがたい。私が最も気に入った温泉は広々とした開放的な露天大浴場であった。そこはまるで池のようで足元には細かい粒子の泥で覆われ、顔や体に塗ると泥パックのように楽しめる。ちなみにここは男女混浴であったことを付け加えておく。

12 万人ほどが暮らす別府市に毎年 1000 万人を超える観光客が訪れる。 撮影 2012 年冬

